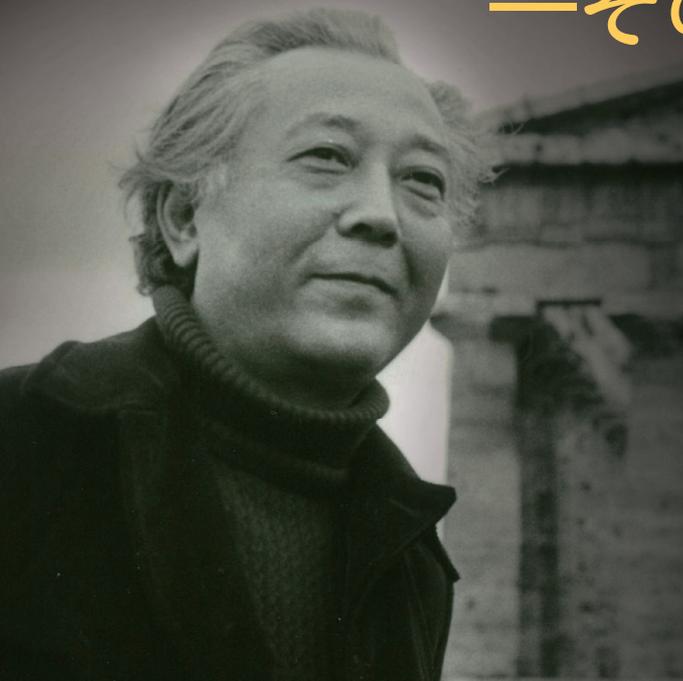


加藤周一を引き継ぐために—

加藤周一における日本文化への視線 —その変貌と意味について



講師

海老坂 武氏

(フランス文学者)

(C) 日刊ゲンダイ



2019年5月25日(土) 14:00開演

立命館大学衣笠キャンパスIG101 (以学館1号ホール)

加藤周一の大きな仕事の一つに日本文化の特質は何かの探求がある。ただ戦争直後に彼が発表した文章には、日本的なものへの批判、さらには嫌悪があふれ、激しい批判の言葉が連ねられている。しかしその心情はどうだったか。1951年から加藤は医学留学生としてフランスに3年余滞在する。その留学の成果の一つが「雑種文化」という概念の獲得である。この概念によって、加藤は日本文化の見直しを始める。さらに、『日本文学史序説』以後、この概念自体の見直しを始める。こうした取り組みの意味を考えてみたい。

(講師略歴)

1934年東京生まれ。東京大学文学部仏文科卒業。同大学院博士課程修了。20世紀フランス文学専攻。大学院時代にフランス政府給費留学生として2年半パリ大学に学ぶ。一橋大学教授、関西学院大学教授を経て現在は執筆に専念。著書に『<戦争文化>と愛国心』(みすず書房)、『戦後思想の模索——森有正と加藤周一』(みすず書房)、『加藤周一——20世紀を問う』(岩波新書)、他多数。

※海老坂氏の御講演のあとに、「加藤周一デジタルアーカイブ」デモンストレーションを行います。公開している「日本文学史」ノートの「古代」、「平安」から、「万葉集」に多くのページを割いた「日本文学史 古代」を中心に御紹介いたします。是非、御参加下さい。

入場無料
申込不要



○市バス15・50・55・59「立命館大学前」下車
○市バス204・205「衣笠校前」下車 徒歩10分
※会場へは、公共交通機関をご利用下さい。

【問合せ】加藤周一現代思想研究センター事務局 TEL 075-465-8225(月~金10:00~17:00)

主催 立命館大学図書館 立命館大学加藤周一現代思想研究センター